

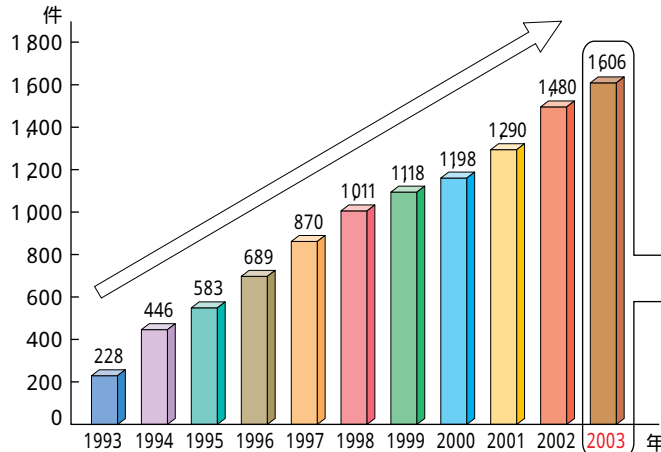
# 輸血情報

## 【赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用 - 2003年 - 】

2003年の1年間に、医療機関において輸血による副作用・感染症と疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、最も報告数の多い非溶血性輸血副作用について示します。

### 輸血副作用・感染症報告件数(医療機関から報告された数、輸血との関連性なしとされた症例も含む)

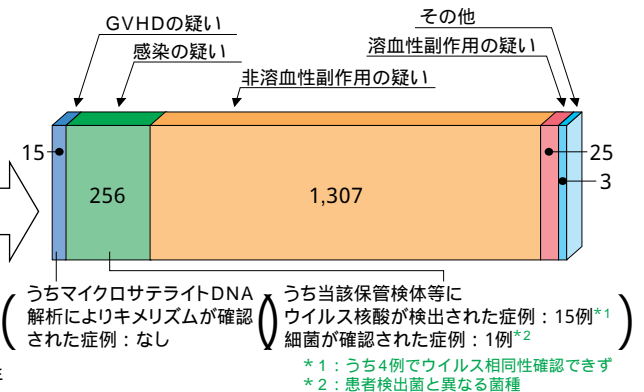
#### 報告件数の推移



#### 報告の内訳

2003年

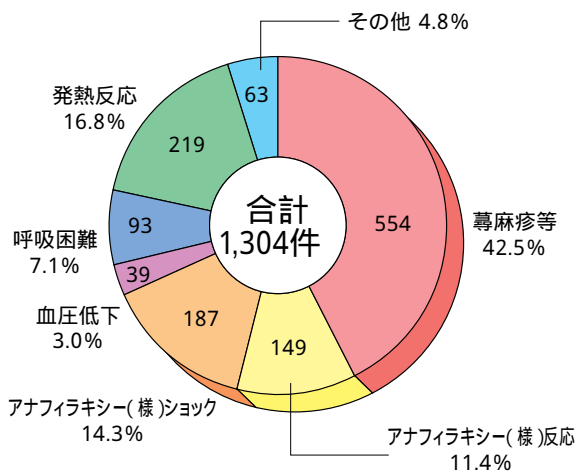
これまでと同様「非溶血性副作用の疑い」が最も多く、全体の81%を占めています。



## 非溶血性輸血副作用 (2003年)

#### 副作用の種類

副作用の種類別内訳は前年(2002年)とほぼ同様の比率で、「アナフィラキシー(様)ショック」、「アナフィラキシー(様)反応」、「呼吸困難」及び「血压低下」の重症例が全体の36%を占めています。



#### 【アナフィラキシー(様)反応】

全身潮紅、蕁麻疹、血管浮腫(顔面浮腫、喉頭浮腫等)、呼吸困難等の全身症状を示したもの。

#### 【アナフィラキシー(様)ショック】

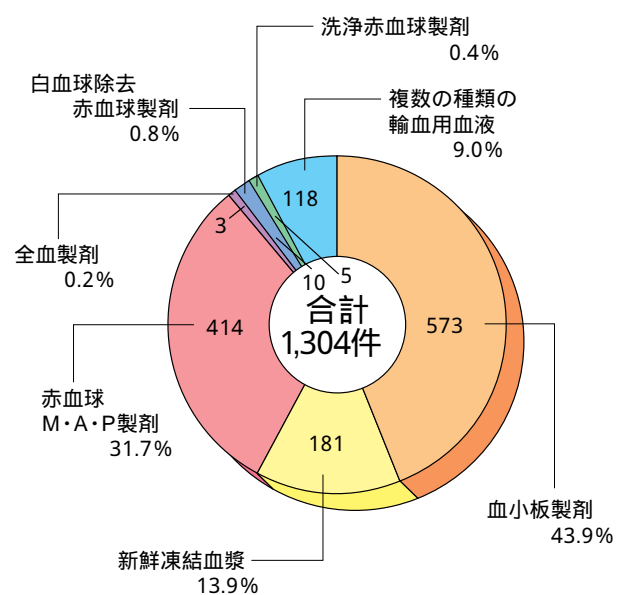
「アナフィラキシー(様)反応」に血压低下を伴ったもの。

#### 【血压低下】

皮膚症状、呼吸困難等の症状を伴わずに血压低下を示したもの。

#### 使用薬剤の種類

血小板製剤の使用による副作用が多く報告されています。



上記製剤には放射線照射製剤が含まれる。

非溶血性副作用の報告総数は1,307件であるが、報告後担当医師が「輸血との関連性なし」とされた症例を除外して解析した。

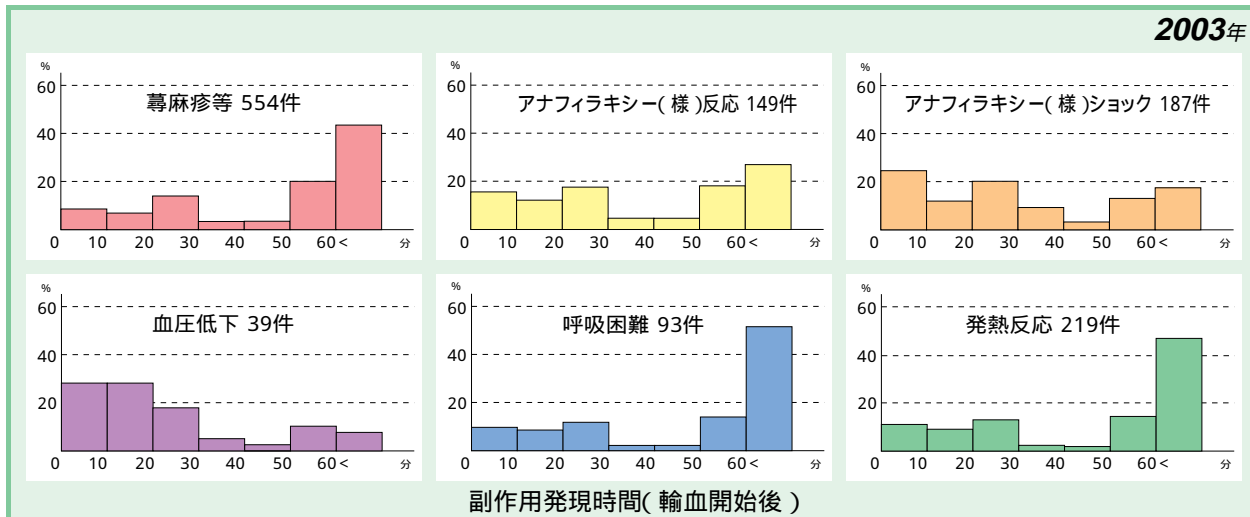
## ■使用製剤・症状別副作用報告(頻度)

2003年				
製剤	血小板製剤	赤血球M・A・P製剤	新鮮凍結血漿	全血製剤
供給本数	706,346	3,298,666	1,461,312	8,525
蕁麻疹等	298件(約1/2千)	98件(約1/3万)	106件(約1/1万)	0件
アナフィラキシー(様)反応	88件(約1/8千)	29件(約1/11万)	18件(約1/8万)	2件(約1/4千)
アナフィラキシー(様)ショック	93件(約1/8千)	34件(約1/10万)	33件(約1/4万)	0件
血圧低下	4件(約1/18万)	28件(約1/12万)	5件(約1/29万)	0件
呼吸困難	30件(約1/2万)	45件(約1/7万)	2件(約1/73万)	1件(約1/9千)
発熱反応	50件(約1/1万)	136件(約1/2万)	13件(約1/11万)	0件
その他	10件(約1/7万)	44件(約1/7万)	4件(約1/37万)	0件
計	573件(約1/1千)	414件(約1/8千)	181件(約1/8千)	3件(約1/3千)

(頻度は対供給本数比) 上記製剤には放射線照射製剤が含まれる。

供給本数に対する副作用報告頻度を使用製剤別にみると、血小板製剤が最も高く、約1千本に1件でした。使用製剤・症状別では、血小板製剤の「蕁麻疹等」が最も高く、約2千本に1件でした。

## ■副作用発現時間



輸血開始後10分以内に副作用が発現した症例が、「血圧低下」で28%、「アナフィラキシー(様)ショック」で25%、「アナフィラキシー(様)反応」で16%を占めています。

輸血中は患者さんの様子を適宜観察する必要がありますが、重篤な副作用の発見のために少なくとも輸血開始後約5分間は観察を十分に行い、約15分経過した時点で再度観察してください。

輸血用血液又は血漿分画製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者さんの検体(使用前後)等の提供をお願いします。なお、使用された製剤はできるだけ清潔な状態で冷所に保存しておいてください。

《発行元》

日本赤十字社 血液事業本部 医薬情報課

〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目4番1号

秀和芝パークビルB館14階

ホームページ <http://www.jrc.or.jp/mr/top.html>

\*お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター  
医薬情報担当者へお願いいたします。